

③

# 青森の伝統工芸品

## ④ ～津軽塗について～

⑥



⑤

津軽塗は青森県弘前市を中心に製作販売される青森県を代表する伝統的工芸品です。縄文遺跡からも出土する漆器に見られるように、人類が文明を築いて以来、最も長く利用してきた植物性原料のひとつにあげられるのが「漆(ウルシの木の幹から採取した樹液)」です。漆器は、日本人の暮らしに欠かすことのできない、大切な日用品であり、芸術品なのです。現代まで伝わっているのは唐塗・七々子塗・紋紗塗・錦塗の四技法です。

⑦

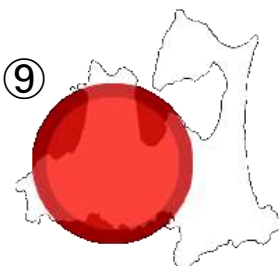
### 津軽塗とは

⑧ 津軽塗は青森県唯一の、経済産業大臣指定伝統工芸品<sup>1</sup>でもあります。この制度の認可を得るためには、次の6点の要件を満たす必要があります。

1. 工芸品であること。
2. 主として日常生活用に供されているもの。
3. 製造過程の主要部分が手工業的であるもの。
4. 伝統的技術又は技法によって製造されるもの。
5. 伝統的に使用されてきた原材料を使用していること。
6. 一定の地域で産地形成されていること。

1～5までの要件は、県内の他の工芸品も十分に満たしています。しかし、6番目の要件を満たすのは、津軽塗のみなのです。

⑨



青森県 津軽地方

⑩

### 代表的な4種類の技法

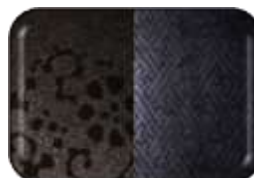
⑪



唐塗  
(からぬり)



七々子塗  
(ななこぬり)



紋紗塗  
(もんしゃぬり)



錦塗  
(にしきぬり)

⑧ <sup>1</sup> 伝統的工芸品産業の振興に関する法律に基づいて経済産業大臣により指定された日本の伝統工芸品

⑫



# こぎん刺し



## ⑬ 津軽こぎん刺しの歴史

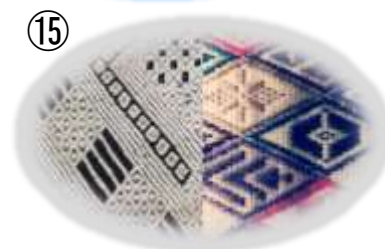
⑭

津軽こぎん刺しが生まれて約300年になります。青森県弘前市を中心とした津軽一帯の農家の女性達が、野生の麻で手織りした布を藍で染めた地布に、木綿の紡ぎ糸で一針一針丹念に綴り刺したものが始まりです。しかし、こぎん刺しとして確立されるまでには津軽ならではの事情がありました。冬でも麻布の衣類しか着られなかった時代には、布地の補強と保温を図って麻地の荒い織目を地刺しで刺し塞ぐ必要がありました。これが「刺しこぎん」といわれているものです。この技術が農民の知恵と工夫によって次第に模様刺しへと進化し、今日「津軽こぎん刺し」として確立されました。

⑮



⑮



⑯

表 1 3つのこぎん刺し

⑯

西こぎん	東こぎん	みしま 三縞こぎん
お城のある弘前市から西側、中津軽一帯の農村で作られたもの。 麻布の目が緻密で模様も細かいのが特徴である。重たい荷物を背負うために、肩に縞模様を配している。前身頃には縞で三段、後ろ身頃は縞で二段に仕切られて様々な模様が使われている。	弘前市の東側の穀倉地帯、現在の南津軽郡一帯で作られたもの。 太めの麻布で粗めに織られた布に刺されたものが多い。他地域にみられる縞模様はなく、小柄な単独模様を繰り返して使用したり、囲み模様と流れを応用した大胆な配置が特徴である。	岩木川の下流、北津軽郡金木町を中心に作られたもの。前身頃と後ろ身頃に太い3本の縞模様が入っているのが特徴である。金木町周辺は冷害や凶作に見舞われることが多く、生活に余裕がなく刺し手も少なかった。現存する古作の三縞こぎん刺し着物は非常に少なく貴重なものである。

# ①⑦ 津軽びいどろ

## ①⑧ <津軽びいどろの歴史>

①⑨ 「津軽びいどろ」を生産する北洋硝子の始まりは1949年、漁業用の浮球（うきだま）製造からでした。当時は他にも浮球を製造する工場がありましたが、北洋硝子の吹き上げる浮玉は他に比べ丈夫である、という確かな品質の評価を得て、1973年には国内トップの生産高となりました。

その後長年の浮玉製造で培った「宙吹き」の技法を用い、青森の自然をイメージさせるハンドメイドガラスの創作に取り組み、1977年、「津軽びいどろ」が誕生しました。職人たちは技術開発にも力を注ぎ、美しい色ガラスの調合や、高い技術を要する技法

もほぼ独学で習得するなど、常に新しい技へのたゆまない努力を続け、現在では青森県伝統工芸品の指定を受けるに至りました。

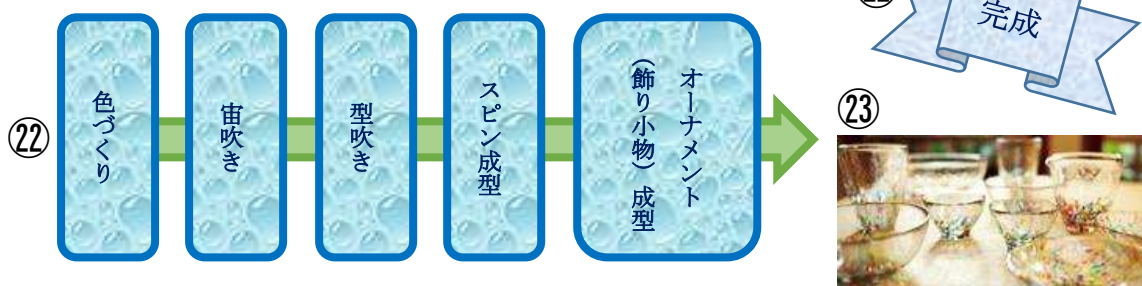
②⑩ 多様な技術・技法、自分たちで作り上げた色ガラスを取り入れた商品は、日本を代表するハンドメイドガラスとしてテーブルウェアだけでなくライフスタイル全般に豊かな彩と季節感を演出しています。かつて浮玉を吹いていた職人達の技術と精神を引き継いだ伝統工芸士と、若い硝子職人達が心を合わせ、「津軽びいどろ」は脈々と作り続けられています。



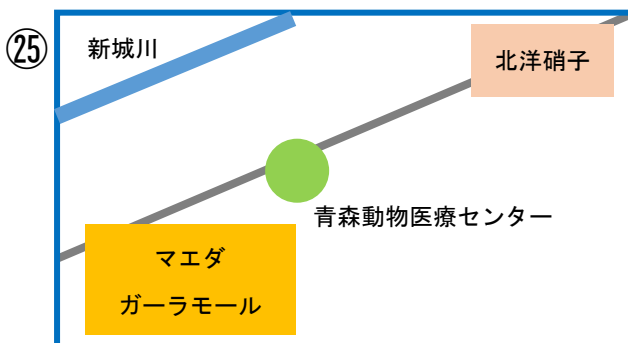
もほぼ独学で習得するなど、常に新しい技へのたゆまない努力を続け、現在では青森県伝統工芸品の指定を受けるに至りました。

多様な技術・技法、自分たちで作り上げた色ガラスを取り入れた商品は、日本を代表するハンドメイドガラスとしてテーブルウェアだけでなくライフスタイル全般に豊かな彩と季節感を演出しています。かつて浮玉を吹いていた職人達の技術と精神を引き継いだ伝統工芸士と、若い硝子職人達が心を合わせ、「津軽びいどろ」は脈々と作り続けられています。

## ②① <津軽びいどろの製法・技>



## ②④ ★北洋硝子案内地図★



②⑥  
住所：青森県青森市富田4-29-13  
TEL：017-782-5183  
ACCESS：  
東北自動車道I.Cより車で約15分  
青森駅西よりタクシーで約5分  
市営バスご利用の場合  
新田扇田バス停下車 徒歩約10分